

ステイタスの解説

ステイタス＝St. とはクラスの確定度合いを表わすものです。

日本では WPS クラス分け規則に基づき、かつ WPS 公認クラス分け委員によってクラス分けされた競技者に付与される「C」「R」というステイタスと、WPS クラス分け規則に準拠した J-FCS で JPSF 公認クラス分け評価で付与される「J」「L」というステイタスを合わせて、「C」、「R」、「J」、「L」の4種類を基本として使用しています。

ステイタスの確定度は①WPS で認定された(国際クラス「C」、「R西暦」、「R」)、②Jレベル(「J」、「JR西暦」、「JR」)、③Lレベル(「LJ」、「L」、「LR西暦」、「LR」、「LL」)④PCの順で優先されます。

それぞれの記号と内容は次のとおりです。

別表1A ステイタスについて

PC: 選手や関係者が JPSF のセルフチェックシステムにて回答形式で導かれたクラスである。競泳を始める際の目安とすることができる。大会へ出場する際の取り扱いについてそれぞれの大会要項に記載する。
L: 地域指定大会等で簡易的な J-FCS クラス分け評価を受けた暫定的な国内クラスであることを意味する。クラスが安定している場合「L」、期限付き見直し「LR西暦年」、見直しは「LR」となる。 日本パラ水泳選手権大会やジャパンパラ水泳競技大会に参加するためには、まず、このステイタスのクラスが必要である。このステイタスで、ジャパンパラ水泳競技大会に参加するときにはクラス分け評価を必ず受けなければならない。日本パラ水泳選手権大会に出場するときには大会要項に従い、必要に応じてクラス分け評価を申し込むこと。なお、地域大会等で“クラスなし”と判定された場合は「LL」となる。「LL」の場合は地域指定大会のみ参加できる。
J: 日本パラ水泳選手権大会やジャパンパラ水泳競技大会等の JPSF 主催大会等で J-FCS クラス分け評価を受けた国内クラスであることを意味する。このステイタスは「L」レベルより優先される(クラスの確定度が高い)。クラスが確定している場合は「J」、期限付き見直しは「JR西暦年」、見直しは「JR」となる。 主催大会等でクラス分けを受けた結果、医学的情報が不十分、クラス分け評価が完了しない、整合性が取れない等、国際クラス分け規則の適用とならない場合又は WPS 公認の国際クラス分けで“クラスなし”と判定された場合等は「LJ」となる。 「LJ」は WPS 公認大会に参加することができない。ただし、日本パラ水泳選手権大会は参加できる。 また、JPSF 主催大会でクラス分けを受けたが、水泳技術において未熟である場合は「L」とする場合がある。

R:Rは WPS 公認大会の国際クラス分けでクラス分け評価を受けた競技者で、Cステイタスに至っておらず、クラスの再検討が必要な国際クラスであることを意味する。「Review:見直し」という意味がある。WPS 公認クラス分けが実施される大会に参加する場合はクラス分け評価を受けなければならない。「R西暦年」は指示された期限まで見直しは不要だが、その年にはクラス分け評価が必要な場合に付与される(FRD)。例えばR2024 は 2024 年の最初に出場する国際クラス分けを実施する大会で国際クラス分け評価を受けなければならない。

C:Cは、WPS 公認大会の国際クラス分けでクラス分け評価を受けた競技者で、クラスが確定している国際クラスであることを意味する。「Confirmed:恒久的」という意味がある。
Cステイタスになった以後は WPS 公認大会に参加に際して、クラス分け評価を受ける必要はない。ただし、WPS から指示がある場合は再度クラス分け評価を受けなければならない。

注1 「LR(西暦)」、「JR(西暦)」と記載されている場合、そのステイタスと同等の大会で指定された年にクラス分けを受けなければならない。

注2 「LR」、「JR」の場合は、競技者が、疾患が進行したという証明を提出し、クラス分け委員が認めた場合、クラス分け評価を再度受けることができる。

注3 L~Jのいずれであっても、クラス分け委員から指示があればクラス分け評価を受けなければならない。

注4 「R(西暦)*」は、国際クラスを国内クラス分けで再確認した場合に追記される。

注5 IPC ライセンス登録手続きをした場合で国際クラス分けが済んでいない場合、スタートリストには「N」が追記される。

注6 WPS 公認大会で国際クラス分け評価を受けて、クラス分け中止となった場合、国内クラス 21 またはステイタス「LJ」となる。